

説明会概要

件 名		都市計画道路中溝線整備事業に係る説明会
出席者	相手先	○関係自治会及び関係者等 22名
	自所属	■市街地整備課 都市整備部長、次長兼課長、課長補佐、係長、主査、他3名 □新南陽総合支所地域政策課 新南陽総合支所長、次長、係長
日 時		令和6年3月26日(火) 18:30～20:05
場 所		周南市学び・交流プラザ（多目的ホール）
主 な 説 明 内 容		・事業内容の説明 ・中溝線の道路計画についての説明 ・中溝交差点の変更計画についての説明 ・質疑応答
配布資料等		配布資料：次第、資料1
【説明内容】 1. 中溝線の事業概要と中溝交差点の交通形態の変更について スクリーン表示及び配布した資料1(スクリーン表示したパワーポイント)による説明 【質疑応答】 (質)道路の嵩上げをもう少し低くできないのか。 (回)中溝線の勾配は最大で4.3%で国道に擦り付く道路計画のため約1m程度の盛土をすることになり、家の出入りに影響する。出入りのための取付道路については、個別に話しをさせていただきたい。 (質)中溝自治会の範囲から中溝交差点集約の影響をどのように捉えているか。 (回)地域活動や回覧の集約、意見徴収等に影響が出てくると認識しており、今後とも地域活動の発展等が事業に伴って阻害されることがないように進めていきたい。 (質)中溝交差点が完成すると国道は安全だが光万寺市営住宅付近の道路など、その他の市道のスクールゾーンが危険になる。 (回)道路ネットワークの形成において中溝線や市道新南陽山手線の単体で安全性を評価するのではなく、全体のネットワークにおいて通学路の安全対策を考慮する。 (質)交差点改良の見直し案について、どのような協議をして確定していくのか。 (回)国道2号を利用される全ての方の安全性を担保するため、将来交通量推計や同様な事例を見ながら、安全施設等を含めた評価、分析を行い、協議を進めている。 (質)国道2号のことだけではなく周辺の生活道路を含めた安全性の向上を考えて結論を出してほしい。 (回)現在、時間規制や横断歩道のカラー化、標識等の安全対策が実施されているが、中溝線が整備された場合の交通量を考慮して現状の対策についても評価したい。		

(質) 西側交差点の中央分離帯を閉じる計画になった理由と根拠法令を示してほしい。

(回) 平成 3 年 12 月の都市計画決定において、交差点の安全性を評価して交差点を閉じることになっている。平成 28 年の交差点協議時においても現行の道路構造令に照らして、中央分離帯を閉じる結論に至っている。右折レーンの長さの基準は現行の 80m の信号間隔では不十分であり、時差式信号や路面の標示等のソフト面を含めて安全が確保できるか慎重に検討している。

(質) 平成 28 年の説明会の案内文書では事業箇所である中溝線のみ範囲を表記し、交差点集約に関する十分な情報提供がなされていない。また、国道 2 号の中溝交差点までが工事範囲となっていることを地域住民がどの程度知っているのか心配である。

(回) 過去の説明会の周知について、平成 28 年当時の説明会における案内において回覧文書の表記や周知の方法に問題があったと認識している。今後は定期的な情報提供により、地域の皆さまに正しい情報をお伝えできるようにしたい。

(質) 西側交差点の位置をずらすことができれば右折レーンを伸ばすことができ、中央分離帯を閉めずにできるのではないかな。

(回) 西側交差点の位置を西側に移動させることができるのか山口県警や国土交通省と協議を行っているが地形的な理由や河川があることから難しいという評価をしている。

(質) 大神からの交通量が多いため、中溝線から国道 2 号の徳山方面への右折レーンが渋滞すると思われる。西側交差点の信号がなくなると国道との合流の危険性が高まる。中溝線周辺は区画整理により交通量が多くなるとわれ、西側交差点の中央分離帯を閉じると、現在より中溝線に集中し混雑する懸念がある。

(回) 右折に関しては、交差点協議の中で将来交通量推計に基づいて協議をしている。現在も交通量で信号現示の 1 サイクルの中での滞留台数、交通影響及び大神線を含めて滞留長を評価している。中溝線だけでなく大神から北側からの進入経路や新南陽山手線の将来交通量推計を行いながら交通に支障がないように協議を進めている。

(質) 交差点の問題など全てを説明し方向性を決めてから工事に取りかかるべきではないか。また、いつ頃を目標として完工する計画なのか。

(回) 様々な課題があり本来であれば課題に対して地域の皆さまにご理解いただいた上で事業に着手することが市としての基本的なスタンスであるべきと考えている。過去の不備等については、同様なことが繰り返されないためにも定期的な情報提供や説明を行いたい。完成時期は令和 7 年度末を予定しているが現実的には厳しい状況であり、今後の進捗をみながら再設定することになる。

(質) 中溝線が開通することで交通アクセスの向上、安心安全な通学路の確保が図られるとあるが、具体的にどのような向上が見込まれるのか。

(回) 国道 2 号と県道、浜田線も一部経由して交通ネットワーク化を進めていくことが交通アクセスの向上になる。安心安全な通学路の確保については、車道と歩道の明確な分離を行うことで、富田西小学校方面や富田中学校方面への安全な歩行空間の確保ができると考えている。

(質) 市道川崎・平野線は富田西小学校への登下校、富田幼稚園への登園で子供が多く通るルートだが、現在は時間帯進入規制等の規制がなく朝夕の通勤時には抜け道として使用されており、このまま中溝線が拡幅されると、抜け道としての利用に拍車がかかる。何か具体的な安全対策は考えているか。

(回) 現在の主道路は市道川崎・平野線で従道路が中溝線であるが、中溝線を 16m に拡幅することで中溝線が主道路、市道川崎・平野線が従道路であると明確化し、抜け道となりにくい道路整備を行いたい。

(質) 中溝線と市道川崎・平野線との交差点において、信号等の安全対策を考えているのか。

(回) 現在の主道路は市道川崎・平野線で従道路が中溝線であり、現在は一時停止の規制がかかっている。
16mの拡幅に伴う交差点改良によって、中溝線が主道路、市道川崎・平野線が従道路であると明確化し、
抜け道となりにくい道路整備を行う。歩行帯についても、中溝線に歩行者通行帯を造る等の措置を行うこと
で安全を確保する。

(質) 国道 2 号の東西交差点のことだけでなく、安全面と不便になるという両面を広いエリアで考える必要がある
のではないかと。

(回) 周辺の道路ネットワークや生活道路との接続、通学路としての安全確保を踏まえて事業を進めていき
たい。

(質) 朝は産業道路に向かっている交通量が多く、夕方は市道新南陽山手線と中溝線の 2 ルートがあり国道 2 号
へ向かう車は分散されるのだが、西側交差点の中央分離帯を閉じて東側交差点に 1 本化されると相当な
混雑が予想される。

(回) 令和 4 年 6 月に交通量調査を実施しており、道路ネットワークの交通量配分等についても考えていき
たい。

閉会